

平成 30 年度 社会福祉法人 誠真会 事業報告

平成 30 年 4 月の医療保険制度と介護保険制度の同時改定はグループホームにとって非常によい影響をもたらしました。改正により病院や介護老人保健施設に在宅復帰が義務付けられたことで、在宅とみなされるグループホームなどの居宅系施設の需要が高まり、当グループホームについても入居者待ちが出るほどの好況となりました。その結果、昨年度稼働率 89.4%から本年度は稼働率 99.7%に上昇し増収とたっております。しかし、昨年より介助人材不足による求人広告費や人件費の上昇により採用経費が増加しております。また、入居者の重度化への対応と職員の負担軽減も含め電動ベッドの導入を進め、今年度も 9 台を購入し、26 床すべてに設置されました。これにより重度の方でも受入れが可能となったことも稼働率の向上につながったと考えます。今年度の稼働率から考えると、これが当施設の収入の限界であります。介助人材の不足問題については更に悪化すると思われ、採用経費は増加し、人件費も高騰しつづげると考えられます。また今年度は平年より多くの台風が発生し、この地区にも何度と上陸し大きな被害を受けました。台風などの防災対策や施設老朽化に伴う修繕費などの財源確保が課題であります。

さて、キッズプラザですが、開設当時から運営課題は安定的な園児の確保でありました。提携企業については人材不足もあり 1 年を通して様々な媒体で当保育所のメリットを前面に打ち出し、働くママに向け求人を行い採用することで園児の確保を行ってきました。期初は稼働率 75%でしたが期中に 95%を超え、期末まで 90%を維持することができました。前期の稼働率 63%でしたが今期は稼働率 84%と上昇し増収となっております。

また保育の質の向上と安定的に確保するため、委託していた運営業者との契約を解除し、9 月から自主運営に切り替えました。この切替えに伴い多くの経費がかかりましたが、保育士が固定されクラス担任制が確保でき、園児の成長過程や特性を把握し情報共有することができるようになりました。またグループホームの畑を使用し、食育の一環として野菜栽培や各施設の高齢者と一緒に行うイベントなど連携が可能となり、園児にも様々な体験をしていただいております。保育内容の充実を図るだけでなく、費用面でも安心して子どもを預けられる環境を整備することで改めて妊娠出産する職員も増えていきます。今後も従業員をはじめ、より多くの方々の仕事と育児の両立支援の一助となれるように努めていきたい。

法人としては、グループホーム、キッズプラザの両方が増収増益になり、利益を計上することができました。今後も健全な事業運営の持続のため、サービスの向上に努めて参ります。